

# 【研究の概要】

## 1 研究全体計画

### <学校教育目標>

「豊かな心と表現力を持ち、よく考え、たくましく生き抜く子どもの育成」

【めざす児童像】 たすけ合う子 よく考える子 たくましい子 夢をいただく子

#### 今日的な教育の課題

確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」

- 基礎的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成
- 自律、協調、思いやりの心など、豊かな人間性の育成
- たくましく生きるための健康や体力の育成

#### 子どもたちの実態

- 明るく元気な子どもが多い。
- 学習意欲、基礎的・基本的な知識・技能の習得状況には個人差がある。
- なかよし活動や、つばさ学級との交流授業等、異学年や他の学級の子との交流に対して好意的な子が多い。
- 統合1年目の学校であり、新たな人間関係づくりが必要である。

### <研究主題>

よりよい人間関係を築こうとする子どもの育成

— 構成的グループエンカウンターを活用して —

#### <視点1>

子どもたちの実態に応じた  
エクササイズを活用

#### <視点2>

子どもたちの人間関係を深める  
シェアリングの工夫

本校は統合1年目の学校であり、子どもたちのクラスや学年、学校への所属意識が懸念事項である。本研究では、統合を「新たな人間関係をよりよい形で作り上げていくチャンスに恵まれた」と捉え、学級における一人一人の満足度を向上させることをねらいとした。一人一人の子どもと学級集団について知り、構成的グループエンカウンターを活用しながら子どもたちがよりよい人間関係を築いていく研究とする。また、よりよい人間関係を築くことが、全ての教科、活動の充実にもつながることを期待した研究である。

## 主題について

### (1) 「よりよい人間関係」とは

人間は、所属する集団における人と人との関係の中で人間形成を図っていくという側面がある。したがって、子どもの成長は、所属する集団の人間関係がどのようなものかによって大きく左右される場合が少なくない。これらのことを踏まえ、「よりよい人間関係を築こうとする」とは、子どもたち一人一人が互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長できるような「個が生きる集団」だと考えている。

### (2) 「構成的グループエンカウンター」について

よりよい人間関係を築こうとする子どもを育成するための具体的な方法として、構成的グループエンカウンターを活用する。

構成的グループエンカウンターとは、情報や知識や物事の善悪ではなく、感情の交流を主とし、自己についての発見や他者の存在や他者との関係を確認し、行動の変容と成長をねらったものである。

<エクササイズのねらいの例>

- ・自己理解
- ・他者理解
- ・自己主張
- ・信頼体験
- ・感受性の促進
- ・自己受容

#### <視点1>

#### 子どもたちの実態に応じたエクササイズの活用

よりよい人間関係を築くためには、「構成的グループエンカウンター」が有効だろう。子どもたちの実態をよく理解し、いつまでにどのような学年・学級・子どもを育てたいかという目標を持って、それに対応した計画を作成する。計画に沿ってエクササイズを実践することで、より効果的に人間関係を築いていきたい。

学級において、子どもたちが落ち着きを見せ始める6月に Q-U 検査を実施し、個人の課題・傾向を含む学級としての課題を把握する。そして浮かび上がった課題改善のために、エクササイズを行う。基本的には、年間を通して「自他理解—自己主張・信頼体験—感受性の促進・自己受容」の配列を意識するが、子どもたちの発達段階や、学級の実態を考慮して、柔軟に配列の見直しを図りながら実践していく。

#### <視点2>

#### 子どもたちの人間関係を深めるシェアリングの工夫

構成的グループエンカウンターの多くは、エクササイズとシェアリングで構成されている。エンカウンターのねらいはエクササイズ後に行うシェアリングの方にあり、エクササイズを通して考えたこと、感じたこと、気付いたこと、学んだことなどを振り返り、分かち合うことが大切である。自分の振り返りだけでなく、肯定的・共感的に友達の言動も意識できるようにさせたい。

このエンカウンターの命とも言うべきシェアリングの場面において、子どもたちがより人間関係を深められるような工夫を模索したい。基本的なルールやマナー、自己開示をしやすい人数設定や場、指導者の振る舞いや助言など、様々な工夫が考えられる。また、授業後の実生活に直接生かすための工夫なども視野に入れていきたい。